

令和6年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



令和6年7月31日(水)～8月11日(日)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要	2
-------------	---

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌	4
------	---

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介	8
-----------------------	---

・派遣生徒

・引率者

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先 オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間 令和6年7月31日(水)～8月11日(日) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

くらまし 倉増 あい菜	竜王中学校	2年	おりぐち 折口 莉音	小野田中学校	3年
いしかわ 石川 紗夜	高千帆中学校	3年	しょうじ 正司 七美	高千帆中学校	3年
たけもと 竹本 理瑚	高千帆中学校	3年	はせがわ 長谷川 桃子	高千帆中学校	3年
やまね 山根 あいと 蒼士	厚狭中学校	2年	こばしがわ 小橋川 ゆり 友梨	埴生中学校	2年
ふじやま 藤山 まさゆき 雅之	教育委員会教育部長		たなべ 田邊 みどり 碧	市民活動推進課	



5 スケジュール

【出発前】

第1回オリエンテーション	6月19日(水)18:30～20:00	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション	7月15日(月・祝)9:00～18:00	本山地域交流センター
壮行会	7月26日(金)16:00～16:30	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	7月26日(金)16:30～18:00	市役所3階大会議室

【オーストラリア派遣期間】

7月31日(水)	厚狭駅～福岡空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
8月1日(木)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月2日(金)	ハイスクールで授業を受ける
8月3日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月4日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月5日(月)	ハンピーボング小学校訪問(※1)
8月6日(火)	ハイスクールの全校集会に参加 モートンベイ市・山陽小野田市オンライン市長会談(※2)
8月7日(水)	ローンパインコアラサンチュアリーへ遠足
8月8日(木)	レッドクリフ図書館、美術館、博物館へ遠足
8月9日(金)	ハイスクール・サビエル高校の生徒とともにフィッシュアンドチップスパーティー
8月10日(土)	ホストファミリー全員とさよならパーティー ブリスベン空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
8月11日(日)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

※2 引率者のみ参加

【帰国後】

帰国報告会	10月4日(金)17:00～	Aスクエア
-------	----------------	-------

活 動 日 誌

日付	報告者	活 動 内 容
7/31 (水)	小橋川 友梨	家族や学校の先生が見送りに来てくれて、17 時頃に厚狭駅を出発しました。オーストラリアへ行く実感は正直あまり湧いていなかったけれど、飛行機に乗ると一気に実感が湧きました。今は不安より楽しみという気持ちが強いです。 初めて体験するものばかりで毎日が驚きの連続になると思うけど、充実した 10 日間にできるように精一杯頑張ろうと思います。
8/1 (木)	山根 蒼士	朝は飛行機で過ごし、お昼頃にオーストラリアに到着しました。その後レッドクリフハイスクールに行き、学校を見て回りました。その中でカードゲームをしたり、バスケットを試してみたりして楽しかったです。 ホームステイ先ではバディのルークのテコンドーの見学のために道場に行きました。
8/2 (金)	長谷川 桃子	今日の学校ではたくさんのことがありました。コンピューターの授業を見学したり、日本語クラスの授業を受けたりしました。日本語クラスでは、自己紹介をしあったり、日本語のお絵描きゲームをしたりして一日でいろんな人と交流することができました。自分から積極的に日本のことや趣味について話しかけると向こうもたくさん話してくれるので積極的に行動することが大切だなと思いました。 家に帰って金魚ちょうちんをプレゼントするととても喜んでくれてすごくうれしかったです。

日付	報告者	活 動 内 容
8/3 (土)	竹本 理瑚	今日は私とバディの二人とホストファザーと私の四人で Australia zoo に行きました。バディが同物についての説明を読んでくれました。ワニと鳥の種類が多くてびっくりしました。カンガルーに餌をやりました。可愛かったです。他にも、ミーヤキャット、コアラ、シマウマ、サイ、、ウオンバットがいました。一番印象に残った動物はコアラです。初めてコアラを生で見ました。 そして感動したのがバディのローラが落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てていました。私も見習おうと思いました。夜にホストファミリーがプレゼントをくれました。
8/4 (日)	正司 七美	今日は1日中 Australia Zoo でたくさんの動物を見ました。特に、昼食の wrap を食べながらワニのショーを見たのが迫力満点ですごかったです。初めて本物のコアラも見ることができました。
8/5 (月)	石川 紗夜	小学校の訪問に行きました。折り紙で鶴を作るとみんな喜んでくれました。学校の事をたくさん教えてくれてセバスチャンという子が写真をとろうと言って沢山誘ってくれました本当にうれしかったです！小学生のノリが面白くて私も小学生気分になりました。お笑い芸人がボケとツッコミみたいな会話をする小学生にとっても癒されました。 小学校からは海がとてもきれいに見えて絶景でした！
8/6 (火)	折口 莉音	今日は、フルーツバスケットの食べ物バージョンをしました。フルーツバスケットとは違い、数を決めたりするルールがあって少し難しかったですが、みんな日本語が上手なのでとても楽しかったです。日本語クラスでビンゴをしました。みんなが積極的に話しかけてくれるので楽しく過ごす事ができました 集会では自己紹介をしました。緊張しましたがみんなの力が良くてすれ違う時にグータッチやハイタッチをしてくれたので緊張がほぐれました。

日付	報告者	活 動 内 容
8/7 (水)	倉増 あい菜	今日は日本語クラスで、日本で有名な曲、ミセスグリーンアップルのライラックを聞いてもらいました。私がミセスのファンというのもあり、1人で盛り上がっていると周りの方に笑われちゃいました。 そのあとは、オーストラリア特有のアボリジニダンスを披露してくれました。私たちのために覚えてくれたと思うと嬉しかったです。
8/8 (木)	小橋川 友梨	今日は美術館、博物館、ビーチへ行きました。最初のランチタイムにバディ2人と一緒に TimTam を食べました。食べながら話していたら共通の話題が多くてとても仲良くなれました。移動している時もハイスクールの生徒達と話して色んな子と仲良くなることができたので、とても嬉しかったです。 帰宅してからは Rob と Pallavi と買い物に行きました。Pallavi はもうすぐ友達の誕生日だからと言って、ケーキを作る為の材料を買っていました。私が「うどんとおにぎりを作りたい」と伝えると、Pallavi も手伝ってくれました。久しぶりの日本食は私にとってもすごく美味しく感じました。
8/9 (金)	山根 蒼士	今日は最後のハイスクールの日で、遠足に行きました。今日行ったクラスの中にバディのルークがいて、たくさんお話をしました。遠足ではビーチでみんなでフィッシュアンドチップスを食べました。初めてフィッシュアンドチップスを食べたけど、とてもおいしかったです。他にもみんなと写真を撮ったり、色んな人とたくさんお話をしたりして、とても楽しかったです。それと同時に、みんなとのお別れがさみしくなりました。 夜はレストランに行き、そこで食べたカルボナーラがとてもおいしかったです。

日付	報告者	活 動 内 容
8/10 (土)	長谷川 桃子	今日はホストファミリーとのさよならパーティーでした。私たちの企画は見事成功でうれしかったです。だんだんお別れの時間が近くなると共に、とても寂しくなってきました。この二週間という素晴らしい時間があっという間に過ぎてしまうことが正直信じられませんでした。たくさんの経験をする事が出来ました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。 そして最後のお別れの時間に私は号泣してしまいホストファミリーも泣いてくれました。バスが出発した後バディのキアラとジャイラ、そしてウィローが走ってくれてもっと泣いてしまいました。私はこの時を生涯忘れません。
8/11 (日)	竹本 理瑚	起きてから前見たかった映画が見れたので台北に着くまで見ました。そして眠たかったのでまた寝ました。乗り換えの後また機内食が出てきました。窓際だったのでたくさん写真を撮りました。写真フォルダを見返して思い出に浸りました。 十二日間は本当にあっという間でした。とても良い経験ができたのでこの事業に携わってくれた人達に感謝の気持ちでいっぱいです。



竜王中学校2年

くらまし
倉増 あいな

1 計画 (PLAN)

○積極的に話しかける

→そうすることで、英語のコミュニケーション能力の向上につながる。

○家での過ごし方が気になるから、それについて詳しく聞く。

→日本とは違う家のルールなど、興味がある。

○なるべく翻訳機を使わない

→せっかく英語を学びにきたから、なるべく翻訳機を使わないで頑張ってみると自分のためになる！

2 行動 (DO)

とにかくたくさんの人と話そうとしたり、自分から積極的に話しかけることによって、コミュニケーション能力の向上に繋がったと思います。そして、1 番思ったことが、周りに日本語を話す人がなかなかいないから、助けを求めることもできなくて孤独を感じました。でも、だからこそ話そうとすると、ファミリーも、ショップに行った時は店員さんも、理解しようとしてくれて、頑張ってよかったなと嬉しい気持ちでいっぱいになりました！

そして、話したいことが伝わると英語に自信を持てるようになりました。



3 評価 (SEE)

☆100点☆

もちろん 100 点です！私はオーストラリアに行く前、食文化について興味を持っていました。私は食を意識して 10 日間過ごしてみました。日本は、朝はご飯と味噌汁のイメージが高いです。しかし、オーストラリアでは 毎日のようにパンでした。昼ごはんは、日本はうどんのイメージが強いです。しかし、オーストラリアは、フルーツやサンドウィッチが多いです。夜ご飯は、日本だと、とんかつやカレーのイメージが強いです。しかしオーストラリアはピザやポテトでした。そしてお肉の日も多いです。このように、オーストラリアはほぼ毎食パンがでてくるのです。日本ではごはんを食べるのが当たり前ですね。でもオーストラリアは違いました。

私なりの意見として、オーストラリアは水があまりない国でお米を育てる水がないのかなーと思いました。なので、オーストラリアの水は少し美味しくなかったです。このようにたくさんの違いがあります。

私は将来、このたくさんの違いを多くの人に経験してもらいたいと思っています。違いを理解してもらい、興味を持ってほしいのです。そのために、私の経験を市の人や県の人、家族や友達などに伝えたり、将来の夢がもし叶えばそこでも沢山語りたいと思います。そして、他にも人種関係だったりも違いがあります。そこをしっかりと理解した上で人と関わり、今回のことを活かしていきたいです。

派遣生徒レポート～たくさんの人との出会い～

学校生活について

私は、「レッドクリフ、ステート、ハイスクール」に通いました。まず、日本の学校で違う点がありました。それは、朝の 2 時間目が終わった時にランチの前にスナックタイムがあった所です。そして、ピアス、お化粧品、スマホ、お菓子などなにもかも OK でした。家に帰るのもすごく早かったです。そしてとにかく学校が大きくて、教室も沢山ありました！そして 1 番印象に残ったのは、日本語クラスです。日本語クラスでは主に、私達も一緒にゲームをしたり、日本語で自己紹介をしました。一生懸命名前を覚えるのが難しかったです！

そして、オーストラリアの先住民、アボリジニの民族舞踊を披露してもらいました。日本で例えると盆踊りのような踊りでした！私たちのために覚えてくれたと考えると嬉しかったです！

そして、放課後はミュージッククラスというものを 1 度体験しました。みんなで合唱していました。ハレルヤーとずっと歌っていたような気がしました。日本語なのか英語なのかわかんないけど、みんなのうた声が綺麗すぎて驚きました！



ご飯を食べる時はいつもバディがきてくれました。すごく楽しいご飯でした！

そして、博物館や動物園、美術館の遠足に行った時は、毎回バディーが違うため、たくさんの人と話せたし、話が盛り上がりました！話しかけてくれるので凄く助かりました！でも自分からも話してみるといつもオーバーリアクションしてくれるので楽しかったです！動物園のコアラはユーカリの匂いでとても臭かったです。何もかもがすごくいい経験でした。





ホームステイについて

私が行ったホームステイ先は家族全員すごく優しく、フレンドリーでした。毎日素敵なファミリーに囲まれて暮らす日々はすごく楽しかったです。

最初の頃は、日本語を話しても通じない辛さと、知らない人達しかいないという不安ですごく辛かったです。そんな時に優しく声をかけてくれたのはバディーのクロエでした。家には1匹の猫と、犬と、1羽の鳥がいました。犬はすごく元気だけど、私のことがどうやら嫌いの

ようですぐに逃げてきます。しかし猫は、私が寝ている時や部屋にいる時必ずついてきてずっと一緒にいてくれました。すごく癒しでした。そしてファミリーに慣れるまで、寂しくて辛くて苦しかったけど、せっかくなら楽しみたいし話したいと思い、いっぱい話しかけました！バディーとはすごく仲良くなりました！

そして、学校帰りに海や公園、アイス屋さんにショッピングなどたくさんのところに連れて行ってくださいました！休日も犬の散歩に行ったり、イートスフードという日本で言う屋台がたくさんあるところに連れて行ってくださったりなど、すごくいい思い出でした。クロエとはいつもロブロックスというゲームをして遊んでいます！今でも遊んでいます！ファミリーにはすごくお世話になりました。感謝しきれないほどお世話になりました。その恩返しとして、私は日本のお土産をたくさんあげました。すると、オーバーリアクションでとても喜んでくれました。嬉しかったです。グミがとても人気でした。そして、抹茶のキットカットはとても人気だと聞いたのでもっていくと、やはり人気ではなかったようです。このように、たくさんのいい思い出をファミリーと作れました。

これは一生の思い出で、my best memory！です！これからもこの経験を活かしてたくさんの人と話していきたいと思います。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

今回の海外派遣を体験して伝えたいことがあります。

1つ目は、お土産はたくさん用意する！です。私のホストファミリーはもちろんのこと、他のファミリーもすごく喜んでいました。私はキットカットの抹茶味が人気だと聞いたので持っていったのですが、あまり人気ではなかったですね。コロロのグミやお味噌汁が大人気です！

2つ目は英語についてです。私は英語が喋れなくてすごく不安でしたが、案外話せなくても、最終日には聞き取れるし、すごく話せるようになってます。もしわからなくてもオーバーリアクションしておけ

ば、なんとか会話は成立します！しかし、話しかける時に注意してほしいのが、最初の言葉です。Do Does Did など、疑問文のときは、しっかり聞いておきましょう！そうじゃないと、もし疑問形なのに、Oh！！that's good など言ってしまうと、何この人、と思われるので、しっかり聞いた方がいいです。もしわからなくてもファミリーが翻訳してくれます！なので安心してください！

ジェスチャーで伝えるのもひとつの手です！

3つ目は、もし、この海外派遣に行こうか迷ってる人に向けてです！

単刀直入にいうと、行かないと後悔します。学生のうちにオーストラリアに行くっていうのもいい経験になりますし、コミュニケーション能力の向上につながります！勇気をだして挑戦することはとてもとてもいいことです！不安だとしても自分を信じてください！

そして、全力で楽しんでください。あっという間です！一生の宝物と、思い出をいっぱい作って、私とオーストラリアについて語りましょう！



お世話になったホストファミリー



父: Matthew

母: Tracey

バディ: Chloe



小野田中学校3年

おりぐち りおん
折口 莉音

1 計画 (PLAN)

- 英語で会話をする力を付ける
→ジェスチャーや知っている言葉を使ってホストファミリーや学校の人と積極的に会話をする
- 日本とオーストラリアの文化の違いを見つける
→よく観察したり、オーストラリアについて質問をする

2 行動 (DO)

難しい言葉は翻訳に頼ってしまいましたが、少しでも自分の力で話せるように知っている単語やジェスチャーを使って話しました。みんな一生懸命に耳を傾けてくれて理解しようとしてくれたので嬉しかったです。

Amber(バディ)と、日本で違うところを話をしたときに、運転免許が取得できる年齢や、お店が開く時間の違い等があり、とても興味深かったです。

3 評価 (SEE)

☆75点☆

Amber や学校の人から話しかけられることが多く、恥ずかしがらずにもっと自分から話しかけたらよかったと思いました。

フリータイムの時に上手に話題を振る事が出来ず、無言の時間が多くなってしまったので、事前に聞きたいことなどをまとめていたらよかったと思いました。

Amber は日本語がとても上手で家族と話す時は、Amber に頼ってしまったのでもっと自分の力でちゃんと聞いて答えられたらよかったと思いました。

今後はもっと語学力を磨き、自分の気持ちや考えを伝えられるようになりたいです。



派遣生徒レポート～ターニングポイントの10日間～

学校生活について

毎日の登下校はホストファザーが車で送ってくれました。学校は中高一貫で1000人以上いる大きな学校でした。学校の人たちが「Hello」や日本語で「こんにちは」と挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたりしてとてもフレンドリーに接してくれました。校則は日本に比べると自由でした。スマホは出さなかったら持っていてもいいし、ピアスや外ウー・髪を染めるなども自由でした。制服を自分らしく着崩して着用している学生が沢山おり、制服で個性を表現できる事が、多様性がみとめられる時代にあっており、日本より進んでいると感じました。驚いたことの一つは給食がなかったことです。毎日サンドイッチとお菓子を持って行き10時のランチタイムと昼食に分けて食べました。日本では、当たり前のように食べている給食ですが、栄養の事をしっかりと考えられた食事を、毎日違うメニューで食べられるということが、どれだけ凄いことで、どれだけ有り難いと言うことを再認識させられました。

ホームステイについて

私がお世話になったホストファミリーは、バディーのアンバーとお父さんのベン・お母さんのティナ・お兄さんのジャクソンの4人家族に犬1匹・猫2匹の家族構成でした。家族みんな「疲れてない？大丈夫？」と体調を気遣ってくれたり「いつでも休んでもいいよ」と言ってくれました。着いて次の日の朝さっそく”ベジマイト”が出てきました。食べるのを渋っていたら「チャレンジ！」と言ってくれたので勇気を出して食べました。なんとも言えない食べたことのない味でした。

行く前は、英語で会話ができるかととても不安でしたが、ホストファザーもマザーも沢山話しかけてくれて、アットホームな雰囲気を作ってくれたので、不安と緊張がとけました。ホストファザーの英語はちょっとナマリが強かったですが、優しくわかりやすい単語で話しかけてくれたので聞き取る事ができました。アンバーは日本語がとても上手だったので、初めのうちは頼り切ってしまい、なかなか英語で会話することが出来ませんでした。ですが、このままでは良くないと思い文章に出来なくても、単語を並べて伝えられるように努力しました。自分の気持ちが伝わった時はとても嬉しかったです。アンバーとは「観覧車」や「リス」などの言葉を英語では何と言うの？日本語で何と言うの？といったやり取りをして言葉を教え合いました。

休日は外でご飯を食べる事が多かったのですが、顔の大きさぐらいのハンバーガーが出てきたときは本当に驚きました。オーストラリアは日本と違って、季節が真逆だったので少し肌寒く、私は上着を羽織ってましたが、周りを見ると半袖・短パンでいる人達もいて体感温度の違いに驚きました。ホストマザーが野生のカンガルーを探しに行ってくれて、初めて野生のカンガルーを見ることが出来ました。野生のカンガルーに近づくことは危険なので、遠くからみました。

私のホストファミリーはとても仲がよく、家族で過ごす時間を大切にしていました。夜は一緒に映画を見たり、UNO をしたりして過ごしました。家族の日常の中に、私を家族の一員として受け入れてくれたことがとても嬉しかったです。

最後の日に「また来年くる？」「いつでもここで待ってるよ」と言ってくれた事が嬉しかったです。ホストファミリーにまた会うという目標が出来た



ので、次は英語で会話ができるように英語力を高めていきたいです。たった10日間でしたが、毎日が充実したかけがえのない日々を送ることが出来ました。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

セブンイレブンや日本食のお店があって、所々で日本を感じる事が出来ました。
来年の派遣生徒さんは、とにかく恥ずかしがらずに沢山話しかけに言って欲しいです！私は最初、外国人の雰囲気圧倒されて、全然話せませんでした。みんなフレンドリーで優しかったので、臆せず最初から沢山話しかければ良かったと後悔しています。なので、英語がわからなくても、ジェスチャーや単語だけでも理解してくれるので、伝わらなくても諦めずに話しかけて欲しいです。



お世話になったホストファミリー



父: Benjamin

母: Tina

兄: Jackson

バディ: Amber



高千帆中学校3年

いしかわ さや
石川 紗夜

1 計画 (PLAN)

相手の顔を見て、積極的に話しかける事でコミュニケーションをとり、山陽小野田市とモートンベイ市の魅力を共有することが目標です。

翻訳機を出来る限り頼らずにジェスチャーだけでなく、これまで習った英会話や自学で学んだ単語や文法を使って、自分の力を試すこと。

山陽小野田市の魅力を改めて探して、現地に行って色々なことを発信していきたいと考えています。

2 行動 (DO)

自分から「What your name?」と訪ねる事が出来ました。

→最初は自らフレンドリーになることが大切だと感じました。そうするとその後の会話が進み、仲が深まったからです。

ジェスチャーと表情を上手に活用しました。

→英語での伝え方に困ったとき私はこの方法を使い、コミュニケーションをとることに成功しました。本当に笑顔は世界共通だと実感しました。

なるべく外で遊ぶようにしました。

→私のホストファミリーは近所の子と仲が良かったので、家に帰ってからすぐ外へ行きたくさんの友達を作ることが出来ました。アクティブになることで英語をあまり使わずとも、みんなで楽しめると感じました。



相づちをたくさん使うようにしました。

→些細な会話でも「Really!?!」「Cool!!!」と言うと相手も笑顔のなってくれるので私はこれらの事もコミュニケーションのひとつだと思いました。「Wow」とオーバーリアクションを使うだけでも相手からの印象が変わると思います。

遠足などの時に buddy 以外の人にも話しかけました。

→同じ buddy の人と沢山話すのはもちろんですが、その buddy の友達などにも自分から話しかける事が出来ました。少し会話を交わすだけでも学校で手を振ってくれたりしてくれたのでたくさんの人と話してみる事が大切だと思いました。

3 評価 (SEE)

☆70点☆

70 点です

私はこの海外派遣を通して以前の私とは大幅に成長したとを感じるからです。誰かが居ないと自分に自信が持てなかったり、緊張しやすい性格だからこそ、コミュニケーションの取り方はとても不安でしたが、オーストラリアに来たことで私自身とてもフレンドリーになったと感じます。海外派遣のメン



バーやハイスクールの友達、ホストファミリーに協力してもらいながらも、自分で出来るようになったことが多くあったので 70 点にしました。

あとの 30 点は周りに助けを求めすぎた事からマイナス点にしました。ネイティブな英語がよく聞き取れない事もあり、ホストファミリーには翻訳機をたくさん使わせてしまいました。ハイスクールでも buddy との会話が弾まなかったり、相手は理解してくれて笑ってくれたけど、沢山話したい勢いで変な単語をたくさん使ったこともあったからです。

この経験は本当に私自身を変えてくれた大事なスタートラインだと感じています。

この機会を与えてくれた山陽小野田市の為に、私はこの経験を多くの人に伝えたいと思いました。そして将来、海外の国々と少しでも関わる機会があった時のために英語を勉強していきたいです。

これからは、海外派遣を通じて得られた体験を生かして、学校生活でも積極的に立候補したり、多くの人とコミュニケーションをとって、成長し続けたいと思います。



派遣生徒レポート～まわりの優しさに気付く 10 日間～

学校生活について

学校生活ではスマホが使えない為、翻訳機なしで自分なりの言葉で表現する事が出来ました。何度か英語で質問されたことはありましたが、好きな色を聞いてくれたり日本の事を聞いてくれたり分かりやすい質問をたくさんしてくれて会話が弾むことが多かったです。移動教室の時も「こんにちはー！」とカタコトながらも話しかけてくれたり、ハイタッチ・グータッチを交わしてくれる姿に驚きました。フレンドリーすぎる！！と最初は思っていたのですが、だんだん慣れてくると私たちからすれ違う人に「hello!」と声を掛けられるまでになってきました。

遠足の時は buddy との距離を少しでも縮めるため沢山話しかけました。釣りが好きな子に「どんな魚がとれるの？」と頑張って英語で聞くと写真をたくさん見せてくれてとても会話が弾みました。

英語を間違ってしまったときには「ゆっくりでいいよ」とジェスチャーで言ってくれました。疲れた時には

「大丈夫？」と聞いてくれたり、一生懸命説明してくれる姿に周りの温かさを感じました。

学校では比較的自由でとても楽しかったです。私が知っている中でもハーフの子がたくさんいてビックリしました。髪の毛を地毛からカラフルな色に染めていたりピアスをつけている子がほとんどでした。個性を大切にしている海外ならではの風潮を見る事が出来て良かったです。

ホームステイについて

ホームステイではみんなが私の事を気遣ってくれました。お腹がすいてるか聞いてくれたり、今日はどうだった？と質問してくれたり、嬉しかったです。

常に車の中は窓を開け、音楽が流れていて味わったことのない海外感にとってもワクワクしました。ホストマザーとホストファザーは周りに気を配れる優しい方でした。ブリスベンへ行ったときお腹いっぱいでも半分以上食事を残してしまったときにホストファザーは「ここはホームレスの方が多いから、ホームレスの方に渡しに行こう」と言って渡しに行きました。なかなか海外の方でもそんなことを言える人は少ないと思うのでその優しい人柄に驚かされました。ホストマザーは地面につまずいてこけてしまった人が居た時、誰よりも先に駆け付け「大丈夫ですか？」と声をかけていました。ほんとに憧れの二人でした。Buddyと妹のameliaはいつも「楽しい？」と聞いてくれました。近所の子が早口で私に話しかけてきたときには、ふたりが「この子は〇〇だと言ったよ」と簡単な文に訳して説明してくれました。こんなに優しいホストファミリーのもとで生活できたことは私の一生の自慢です！

生活面では、風呂の時間が決まっているわけでもなく洗濯も2、3日に1回してもらう事が出来てそんなに困ったことはありませんでした。でも何か一つあるとしたら、ドアについてです。私のホームステイ先では常にどの部屋もドアが開いていました。後から知った事によると「ドアを閉める事により距離ができる」と感じてしまう方がオーストラリアでは多いそうです。だから私はなるべく、ドアを開けてオープンにする様にしました。オーストラリアと日本の生活の違いに驚きながらもその違いを楽しむことが出来ました！



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

表情は良くも悪くも伝染すると学びました！自分が笑顔だと相手も笑顔になるし、自分が落ち込んでいると相手は自分の事の様に心配してくれます。

悩んだときには同じ海外派遣のメンバーや引率者の方が必ず助けてくれます！

自信をもって行ってきて欲しいと思います！一生の思い出になるので！

日本の飴やキャンディーなど、簡単に食べられるものをもっていくと話すきっかけになります！

英語がカタコトだったとしてもオーストラリアの方は最後まで聞いてくれます。海外派遣を通してオーストラリアの方々の良さをたくさん知ってもらいたいです。



お世話になったホストファミリー



父:Trent

母:Lynda

バディ:Harmony

妹:Amelia



高千帆中学校3年

しょうじ なな み
正司 七美

1 計画 (PLAN)

- ・友達をたくさん作って交流を深める。
→ハイスクールで自分から色々な人に積極的に話しかける。
- ・自分軸を持てるようになる。
→その場の雰囲気流されるのではなく、自分の意見や感想を相手に伝え、気になったことはたくさん質問する。
- ・英語力、コミュニケーション能力 up
→英語の文章が思い浮かばないときも、単語やジェスチャー、表情でとにかく伝えようとする。笑顔！！
- ・オーストラリアの文化を知り、日本の文化を伝える。
→何事にもチャレンジしてみる。写真などを使って日本のことを知ってもらう。



2 行動 (DO)

- ・とにかく話してみることを意識しながら生活しました。学校でも家でも、自分からたくさん質問したり日本のことを伝えたりしてお互いのことをたくさん知ることができたので良かったです。
- ・オーストラリアの人々に合わせてリアクションを大きくしてみました。また、言葉に感情を込めて話したり表情をつけて話すことを心がけました。そうすることで相手ともっと打ち解けることができたので嬉しかったです。
- ・諦めずに英語で話すことを頑張りました。オーストラリアは独特な英語の発音を持つ国なので中々伝わらないこともありましたが、言葉を変えながら一生懸命伝えようとして相手が理解してくれたときはとても嬉しかったです。



3 評価 (SEE)

☆80点☆

最初は言葉に詰まってしまうことがあり、お互いに翻訳機を使うことが多かったけど勇気を出して自分のやりたいことをたくさんできたので80点です。



翻訳機を使うとすぐに伝えることができますがどうしても機械の言葉になってしまうので自分の言葉で伝えることが大事だなと思いました。でも、自分から色々な人に写真を撮ってもらってもいいか聞いたり、自分のやりたいことを伝えたりして悔いの残らないように生活できたのですごく良かったです。

私は将来、空港で働くことが夢なのでもっと英語の勉強を頑張りたいと思いました。特に、速い英語を聞き取るためのリスニングとすぐに自分の考えを英語で伝える力をつけたいと思いました。

派遣生徒レポート～一步を踏み出す勇気～

学校生活について

私は初めて学校に行った時、日本の学校との違いにとっても驚きました。髪を染めている人が多かったり化粧をしていたり、日本の学校に比べて校則があまり厳しくない印象を受けました。昼休みも教室で静かに昼食をとるのではなく、学校内の好きなところへ行って自由にとることができました。一人ひとりが自分の好きなように過ごすことで個人の尊重に繋がっているのかなと思いました。私たちは日本語クラスの生徒たちと一緒に過ごすことが多かったですが、みんなとても日本語が上手で驚きました。日本の有名なアニメや観光地などについて話をするとうごく喜んでくれたので嬉しかったです。特に日本のアニメが好きな人が多かったです。アボリジニのダンスも見せてもらいました。そのあとは一緒にブーメランを作りました。昔から受け継がれている大切な文化なんだなと思いました。

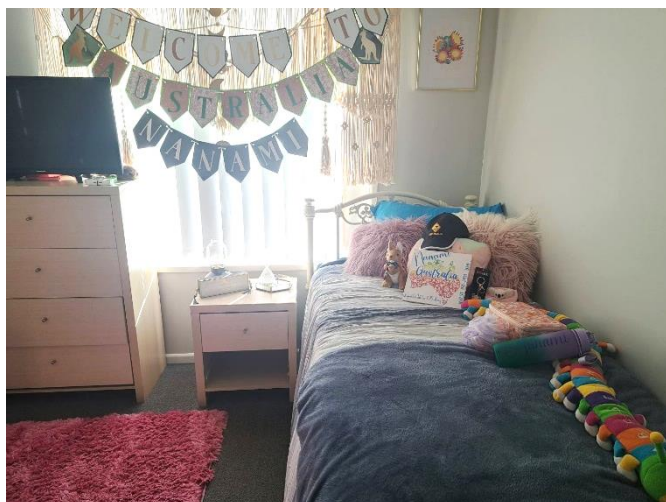


レッドクリフハイスクールで過ごすだけでなく、近くのハンピーボング小学校に行ったり、バスに乗って遠足に行ったりもしました。小学校では一緒に折り紙やバスケットをしました。帰る時に小学生が抱きついてきてくれてとても可愛かったです。遠足は、ローンパインコアラサンチュアリーに行く日とレッドクリフの博物館、図書館、美術館に行く日の2日間ありました。1日目のローンパインコアラサンチュアリーでは、コアラの背中を触ったりカンガルーに餌をやったり、オーストラリアでしかできないような貴重な体験をすることができました。2日目の最後には学校の近くの海に行きました。日本の海に比べてとても大きく、遠くまで見渡すことができました。

7日間の学校生活はあっという間でしたがたくさんの友達を作ることができました。私たちが全校集

会で挨拶をした後に、一人の生徒が日本の神社の絵を描いて渡してくれたことがすごく嬉しかったです。私は学校生活を通してもっと他国のこと、そして日本のことを勉強したいと思いました。実際、日本について説明できることが少なかった気がします。もっと自分の国について知ることが大切だと思いました。

ホームステイについて



私のホストファミリーは本当に優しくて、私のことをすごく歓迎してくれました。バディーのニキータとお兄さんのベイリー、母のリンダの3人で暮らしていましたが10人以上の子どもがいるらしく、ホームステイ中にたくさんの子もたちと遊ぶことができました。初めて私の部屋に行くとベッドの上にたくさんのお土産と「Welcome Australia NANAMI」という飾りがしてあってすごく嬉しかったです。最初は緊張と不安で全く会話ができませんでしたが、みんなゆっくり話してくれたり翻訳を使って伝えてくれたりしました。環境に慣れてきてからは翻訳を使わずに自分の言葉で伝えることを頑張りました。ホストファミリーも私の曖昧な英語を一生懸命聞いてくれて、伝わったときはすごく嬉しかったです。難しくても、時間がかかってもなんとか自分の言葉で伝えることが大事だと思いました。



ホストファミリーと過ごす中で外食に行くことが何度かありましたが私はオーストラリアのご飯の量に驚きました。スモールサイズを頼んでも日本の大盛りくらいの量が出てきます。でも食べきれない分は店員から容器をもらって持って帰って食べたり次の日の昼食にしたりします。

これなら昼食の手間を省けるし食品ロスを減らすこともできるなと思いました。また、オーストラリアは水がとても貴重でペットボトル1本が400円くらいします。なので家でシャワーを浴びるときは5分以内で終わらせるように言われました。冬だったこともあり、大変でした。

週末はホストマザーの孫娘のケンジーを預かる日で、金曜日の夜にケンジーが家に来ました。日本からのお土産としてシールとアンパンマンのボールをプレゼントするとすごく喜んで気に入ってくれてとても嬉しかったです。ホストファミリーにはそれぞれにお土産と日本のお菓子や白米、味噌汁などを持って行きました。抹茶味のお菓子をとても気に入ってくれて、私が日本に帰っても抹茶についての本まで買ってくれていてとても嬉しくなりました。休日はケンジーやベイリーの彼女のセナと一緒に熱帯雨林やジンジャーファクトリー、オーストラリア動物園に行つて日本では見たことのない動物をたくさん見ることができました。土曜日に家に帰る途中、リンダの友達の家に行きました。私は帰る直前まで一緒に写真を撮ってもいいか聞こうかすごく迷いましたが勇気をだして伝えることができました。次の日の動物園でも自分からセナと写真を撮ったり、みんなになんの動物が好きか質問したりできまし

た。今では、あの時勇気を出して行動して良かったと心から思っています。

最後の日には手紙と折り紙で作った20羽の鶴を渡して、私が会った人に渡して欲しいと伝えました。お別れするのは辛かったですが、たくさん貴重な経験をして、最高の思い出を作ることができました。絶対にまたオーストラリアに来ようと思います。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

まず、この事業に少しでも興味があったらぜひ参加して欲しいです。私も最初は10日間も日本語なしで過ごせるのか不安でいっぱいでしたが、絶対一生の思い出になるし貴重な経験になります。そして派遣生徒は後悔のないようにして欲しいです。私は最後の日、ホストファミリーのベイリーがお別れパーティーに来ることができないと知らずにバイトに行くだけだと思ってお見送りをしてしまいました。ベイリーはそのことを伝えてくれたのですが私は理解できないままにしまいました。相手の話のスピードに合わせることも大切ですが、分からないことを分からないままにしないことも大切だと思います。オーストラリアは行きたい時にすぐ行けるところではないので後悔しないように、とにかく楽しんでください！

このような貴重な経験をさせて頂き、心から感謝しています。ありがとうございました。

お世話になったホストファミリー



母: Lynda

兄: Bailey

バディ: Nikita



高千帆中学校3年

たけもと りこ
竹本 理瑚

1 計画 (PLAN)

- ・何事にも積極的に
→積極的に話しかける(遠慮がちを卒業)
→慣れないことにも挑戦し、分からなかったら聞いて異文化に触れて全力で楽しむ

2 行動 (DO)

- ・バディに遊ぼうと言ってみる
→勇気を出したらいいよと言ってきて嬉しかった。
- ・分からなかったらどういうことか聞いてみる
→動物園でいろんな動物についての説明をしてきて大好きな動物に関して色々知ることができた。

3 評価 (SEE)

☆80点☆

前半は積極的になれなくて自分の部屋にこもってしまうことが多かったのと後半は自分の意見を言ったり話しかけたりできたけど勇気を出すまで時間がかかった。

でも全力で楽しむことができたので 80点！

・最初は大変だったけど慣れたら早い英語も聞き取れるようになったのもっと勉強して将来は英語を使ったお仕事したい

・ハイスクールでいろんな人に話しかけてフレンドリーになれたので高校生になったり環境が変わっても色々な人と交流していきたい



派遣生徒レポート～夢に近づくための第一歩～

学校生活について

オーストラリアの学校は日本の学校と違う点ばかりでした。まず中学生が専門的なビジネスやプログラミング、日本語などを学んでいました。私が参加したプログラミングの授業では自分でパソコンに打ち込んでそれを小さい車に繋げて走らせていました。友達同士で協力したり先生に助言をもらったりしていました。専門的なことを学ぶのは中高一貫だから、ということもあるのかなと思いました。

また学校にはオーストラリア人だけではなくませんでした。純日本人、日本とオーストラリアのハーフなどもありました。私のバディはオーストラリアとニュージーランドのハーフと聞きました。そして日本語クラスの生徒の子達は日本語がとても上手でした。ローンパインコアラサンチュアリーにいくときの私のバディは日本語が上手でバスの中では日本語で喋りました。連絡先を交換した人の中にも日本語でやりとりしてくれる人もいました。日本が好きと言ってくれる人が多く、私はすごく嬉しくなりました。

行きと帰りはホストファザーとホストマザーが車で送り迎えをしてくれました。バスのカードみたいなのを初日に貰いましたが一度も使いませんでした。日本では毎日自転車で登下校していたので新鮮でした。



衝撃的だったのがなぜかランチタイムが2回あることです。初め1回目のランチタイム、時間がないので急いで全部食べました。するともう一回あって驚きました。その時は私のバディがアイスをくれてそれを食べました。1コマ70分の授業を2回受けて1回目のランチタイム、その後もう1コマ授業を受けてまたランチタイム、そこから最後の授業を受けて帰宅、という流れです。帰宅の時間も早かったです、通常は3時前くらいに学校が終わります。金曜日は短縮なので2時前に終わりました。日本はいつも4時くらいに終わるので毎日があっという間でした。

ホームステイについて

私のホームステイ先は四人家族でバディは私と同年の女の子のローラと私の弟と同年の男の子のロックランの二人で接しやすかったです。家は二階建てで家にプールがありました。庭にテラスもあって呆然としていたらゲームの専用部屋やレゴが飾ってある部屋まであって結局広すぎて最終日まで家の構造が覚えられませんでした。

初日は学校帰りにスーパーに行って私の朝ごはんや昼ごはんを買いに行きました。スーパーがとても広くてびっくりしました。パンやシリアル、フルーツなどを買ってくれました。りんごが日本のより一回りくらい小さかったです。それ以外は何もかもビッグサイズでした。

家族がよく感想を聞いて私が楽しめるようにしてくれました。一日目にホストマザーが楽しく過ごすために何をしたいかと聞いてくれたのでゆっくり話してほしいと伝えました。伝えるのはなんとか



るけど聞き取るのがとても難しかったけど聞き返して何回も答えてくれて単語とジェスチャーで伝えることができました。なんでもいいね！と言ってくれるので自分に自信ができました。

放課後は海が家から近いので散歩にいたり、夜にランニングに行ったりしました。途中でマンゴーアイスを買ってもらって食べました。とても美味しかったです。また三人ゲームもしました。ローラがとても上手でした。八日目にお土産を買いに行きたいと勇気を出して言ったらすぐショッピングに連れて行ってくれて家族や友達用のお土産を選んでくれてお金も出してくれました。九日目は金曜日で日程が短縮だったこともありゴールドコーストという都市のようなところに連れて行ってくれました。お店にっている遊べる施設にいてシューティングゲームや鏡のトンネルで遊びました。昔のすごい人たちについての展示がある美術館のようなところに行っているいろんなことを体験しました。すごく楽しかったです。その後商店街みたいなのところに行っていくつかのお店を回った後もう一つ遊ぶところに連れて行ってくれて暗闇をすすむんでいく迷路で遊びました。ツルツル滑ったり壁にぶつかったりしていたらローラが手を繋いでくれて一緒に進みました。とても楽しかったです。最後に近くに海があったので写真撮ったり真っ暗の中砂浜でサッカーをしたりしました。最高に楽しかったです。片道二時間で仕事もあるのに連れてきてくれたホストマザーに感謝です。

休日は動物園やショッピングモールに連れて行ってくれました。動物園では日本と違う動物がたくさんいました。車の中で英語版のスパイファミリーを見ました。車の中が全然退屈じゃなくなりました。カンガルーに餌をやっていたら急にカンガルーが立って走り出したのでびっくりしました。ワラビーに餌をあげたかったのに近づいたら逃げられてあげられませんでした。その後なぜかターキーが来て餌を食べられました。いろんな種類の鳥がいました。お土産屋さんで仕事でこられなかったホストマザーにお土産を買ったら喜んでくれたので嬉しかったです。ショッピングモールでは雑貨を色々買いました。アクセサリーを買う時に悩んでいたならローラが決めてくれました。中にダイソーがあって入って見たら一個三ドルぐらいで全然百円じゃなかったです。でも日本と同じものが売っていて商品の名前や説明も日本語で書いてありました。ホストファミリーにこれは何？と聞かれたので英語で説明しました。日本のダイソーと同じものに加え日本の薬局やスーパーに売っているものもありました。バディのロックランラムネを買っていて開け方を教えました。日本食のお店も何個か入っていました。お昼ご飯は日本食を食べて待ち時間におもちゃ屋さんで買ったウノをしました。いろんなおみせを回ってから気づいたのが商品かかっているフックが日本と違いました。日本は落ちないようにフックの先が上を向いていますが、オーストラリアでは下を向いていて取りやすくなっていました。

ご飯は朝ご飯とお昼ご飯は自分で用意しました。朝はシリアルや食パン、人生で初めて青リンゴも食べました。夜ご飯は外食をしたり家で BBQ をしたりしました。びっくりしたのが日本食はしばらくお預けか、と思っていたら食卓に白ごはんが出てきたりショッピングに行った時に軽食で寿司を食べました。日本のお寿司とは違い唐揚げが海苔と酢飯で巻かれているものや海老天が入っているものもありました。日本のとは違いましたがとても美味しかったです。そして飲み物は家では冷蔵庫にウォーター



サーバーのようなものがついていたのでそれを飲んで、学校もお水でした。外で水を買うとなると安くても三ドルとかでした。外食をした時やお出かけしている時はほとんどジュースでした。普通のジュースもありましたがどこにいてもフローズンドリンクが売っている印象でした。いろんな味がありましたがラズベリーが一番美味しかったです。日本でも売って欲しいなと思いました。

今回、たった十日間でしたが本当に色々なことを学ばせてもらいました。大変なことやもったこうしておけば良かったなと思うこともありますが高の思い出になりました。山陽小野田市に住んでいて本当に良かったなと思いました。将来海外で働きたという夢により近づくことができました。またホストファミリーに会いに行きたいです！

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

事前にホストファミリーとやりとりをしてハウスルールは聞いておくとう良いと思います。そしてやりたいことは常識の範囲で伝えるとう良いと思います。私は買い物に行きたいと言うか迷って勇気を出して伝えたらすぐ連れて行ってくれました。日中はたまに寒い時もありますが基本半袖で過ごせます。夜出かける時や飛行機は寒かったので薄い羽織は鞆に入れとくと良いと思います。十日間は本当にあっという間です。言語の壁があって大変だともいますが後悔ないように過ごしてください！

お世話になったホストファミリー



父: Richard

母: Tracy

バディ: Lochlan

バディ: Lola



高千帆中学校3年

は せ が わ も も こ
長谷川 桃子

1 計画 (PLAN)

・たくさんの人との関わりを通して、自分が成長するきっかけを作る
→1日10人以上の人と話す！

→Hello などのあいさつだけで終わらせない

→日本のおすすめしたい食べ物や場所などを紹介し、オーストラリアのこともたくさん聞く

→笑顔で全力で楽しむ！

2 行動 (DO)

私は「とにかく積極的に行動しよう」と心に決めていたので、授業などで隣の席になった人に名前や趣味を聞いて共通点があったらグータッチなどをしてお互いが話しやすくなるように笑顔で接しました。すると、相手もだんだんと話をしてくれました。外国の人たちなので英語がすごく速くて、うまく聞き取ることができなくて最初はすごく悔しいと思いました。でも、pardon?などを使うことでゆっくり説明してくれることが分かって少し安心しました。ホストファミリーと過ごす時も自分から、「一緒に作ろうよ！」と言ったり、自分の本音を伝えたりすることが出来るようになっていきました。もっともっと英語を勉強して速い英語を簡単に聞き取って自分が考えていることを良い発音で伝えることが出来るようになりたいと思いました。



3 評価 (SEE)

☆91点☆

私はいろんな人に話しかけたりビックな反応をしたりと笑顔で何事にも挑戦したのでこの点数にしました。でも、分からない単語があったときに翻訳を使ってしまったり、ホストファミリーと話しているとき、うまく会話が進まなかったりすると自分から sorry と言って気分が落ち込んでしまうことがあって少し苦しいときもありました。そんな時でも「一緒に海に行こう！」、「ドライブに行こう！」と声をかけてくれたり、ハグをしてくれたりするホストファミリーが私は大好きです。

そしてこの二週間の中でたくさんの友達が出来て今もチャットなどでよく会話をします。オーストラリアの人たちは本当に親切でした。私はこの派遣事業を通して成長できたと強く思います。未来のこと

がより明確になったのではないかなとも感じました。私の夢はオーストラリアで獣医師として働くことです。その夢に一步でも近づくことが出来るように、これから多様性を認めることの大切さ、人との関わり方などを良い方向に変えていきながら過ごしていきたいと思います。

派遣生徒レポート～成長を感じられた二週間～

学校生活について

学校は、当たり前だけれど全て英語漬けの生活だったので本当にここはオーストラリアなんだと感じました。バディのジャイラとキアラに初めて会った日本語クラスでは、振り返ればたくさんの思い出がありました。日本語クラスでの授業では、自己紹介をし合ったり、一緒にゲームをして楽しんだり、折り紙をしたりとたくさんの人たちとすごく仲良くなることが出来ました。ランチタイムではラグビー部の男の子たちや、体育の授業などを通して仲良くなれた女の子たちが来てくれてみんなでお互いの国のことや趣味についてたくさん話しました。そういう一瞬一瞬の時間が私の宝物となりました。

他にもアボリジニの祖先をもつ生徒たちと一緒に、伝統の民芸品のブーメランを作ったり、同じ学年の生徒たちと音楽の授業を受けたりしました。アボリジニの文化に興味があったので民族の服や民芸品のことを知ることが出来て良かったです。小学校にも行ったのですがハイスクールと同じくらい楽しかったです。そこでは午前中しかなかったけれど一緒に折り紙を作ったり、外でバレーボールをしたりしてすごく仲良くなりました。帰るときにハグを何回もしてくれて「忘れないよ。」と言ってくれたことを今でも覚えています。

ハイスクールでは遠足が2日間ありました。その中でも動物園とビーチは私の一番の思い出です。動物園では初めてコアラを見て触ることができ興奮しました。動物園で仲良くなれた人たちとは今でも連絡を取り合っています。そしてビーチでは、みんなでハートの形に砂を掘って、その中にスマホを入れてカメラで素敵な写真を撮ったり、みんなで遊んだりして満喫しました。すごく楽しかったです。

学校最後の日にはパーティーがありました。みんなでフィッシュアンドチップスを食べたり鬼ごっこをしたりして思い出を作りました。みんなと仲良くなれてInstagramもつながることが出来て幸せに感じました。学校で過ごした時間は、思っていたよりもあっという間に過ぎてしまい、すごく悲しかったけれどこの思い出を忘れずに日本の生活に生かしていきたいと強く思いました。



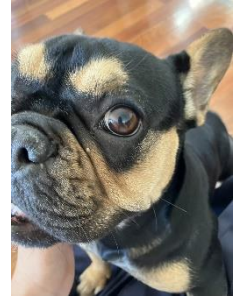
ホームステイについて

ホストファミリーとして迎えてくれたのはバディのキアラとジャイラ、妹のウィローとマザーのセレナとファザーのアイザック、そして二匹の犬のマルコーとベリー、猫のセイラでした。家族とはたくさんのことをしました。ショッピングに行ったり、夜にアイスホッケーやラグビーの試合を見に行ったりと私には新しい経験ばかりで毎日がワクワクの連続でした。夜に海岸を散歩して近くの公園でたくさん遊んで大笑いしたことやオーストラリアのサーティワンアイスクリームを食べたことなど思い出すだけで笑顔になります。アイスはすごくビックで食べ物が好きな私にとってすごく幸せでした。

休日はたくさんの場所に行きました。中でも都市のブリズベンはとても大きく、ブランド品がいっぱいで圧倒されました。セブンでアイザックがセルフのシャーベットアイスを買ってくれました。すごくビックでびっくりしたし、食べながらレジを待っている姿に笑ってしまいました。他にもキアラとジャイラとその友達のジェシカと4人でショッピングに行きました。私は香水に興味があると伝えるとおすすめの場所をたくさん紹介してくれました。お昼ご飯に寿司を食べたけれど日本の寿司と全く違ってびっくりしました。日本の寿司より大きくてネタが長く、私はハニーチキンを頼んだけれどすごく甘かったです。オーストラリアのポテトの味付けが私はとても好きでした。

放課後は一番下のウィローとバレーボールをしたりダンス動画を撮ったり、ハンドボールをしたりするのが日課になっていました。ハンドボールは私が想像していた遊びと違ってソフトテニスボールみたいなものを手でついて相手に返して取れなかった方が負けという遊びでした。とても盛り上がったので日本でもやってみたいと思いました。私が部屋にいるとき、ウィローがドアの下に手紙を通してくれました。読むと「一緒にプレスレットを作らない？」という誘いの手紙でした。うれしくてすぐにウィローのもとへ行きました。私の家族は音楽を聴くことが大好きでテイラー・スウィフトが好きだという共通点があったのですごくうれしかったです。長時間ドライブもみんなで熱唱しながら楽しみました。私はホストファミリーの影響でもっとテイラーが好きになりました。家族で回転寿司に行く機会があり日本食が懐かしく感じました。みんな日本が好きみたいで「来年に旅行で行くからその時にまた会おうね」という話をしました。

最終日の午前中には海に行きました。もう終わりだと思うとなぜか勝手に涙が出てきて止まらなくなりました。その時マザーのセレナが baby といって抱きしめてくれました。その温かさを今でも忘れません。ホストファミリーは本当の家族のように接してくれて私は本当に幸せでした。お別れパーティーが終わってバスで出発するとき家族のみんなが泣いてくれてもっと寂しくなりました。バスが出発すると同時にバディのキアラとジャイラ、そしてウィローが走ってくれながら手を振ってありがとうと言ってくれました。私は涙で顔が腫れてしまったけれど本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

私がこの 2 週間を通して感じたことは人の温かさです。オーストラリアの人はみんなとても優しく本当に面白い人たちばかりでした。だから、緊張せずにまずは自分のことについて英語で話して、相手の趣味などを聞き、共通点などを通して仲良くなることが大切だと思います。私は積極的にコミュニケーションをとって、ビックすぎるくらいの反応をして相手との会話を楽しみました。そして日本のアニメの絆創膏などを持って行って仲良くなった人にあげるとすごく喜ばれたのでうれしかったです。ハイチューも人気でした。オーストラリアの人は反応がビックなので恥ずかしがらずに真似してみるとたくさんの人と仲良くなれると思います！この経験は本当に人生の糧になるのでぜひチャレンジしてください！

お世話になったホストファミリー



父: Isaac

母: Selena

バディ: Kiarra

バディ: Jayla



厚狭中学校2年

やまね あいと
山根 蒼士

1 計画 (PLAN)

目標: コミュニケーション能力や英語力を高めるとともに、現地の人との交流を深めること。

どのようにして達成するか

- ・ホストファミリーやハイスクールの人たちと積極的に関わる。
- ・翻訳機に頼りすぎず、自分の力でも頑張って英語を話す。

2 行動 (DO)

・ハイスクールで出来るだけ多くの人に話しかけたり、手を振ってみたりした。すると、色んな人が挨拶を返してくれたり、手を振ってくれたりして、嬉しかった。

・オーストラリアの食べ物に積極的に挑戦した。最初は食べるのが不安だったベジマイトも、美味しく食べることができ、少し驚いた。

3 評価 (SEE)

☆80点☆

この海外派遣で得ることができたチャレンジ精神、コミュニケーション能力を活かして、他の人との関わりをより広げていきたい。



派遣生徒レポート～オーストラリアの10日間～

学校生活について

日本の学校と違うところがたくさんあり、ハイスクールは日本でいう中学、高校が一緒になっており、学年も7年生～12年生までであることを知りました。その分日本の学校よりも人口が多く、学校の広さもとても広かったです。また、髪色や髪型が特に定まっていなかったり、ピアスをしている人がいたり、日本の学校と比べてとても自由であることが驚きました。下校時刻・登校時刻が日本と違ったり、休み時間の数が多かったり、休み時間に体育館が使えたりと、いつもの学校生活とは全く違ったような生活だったので、新鮮でとてもよかったです。



ホームステイについて

僕を受け入れてくれたホストファミリーは出会った時からいつも優しく接してくれ、寄り添ってくれる最高のホストファミリーでした。学校から帰った後も趣味を共有してくれたり、一緒に運動に誘ってくれたり、毎日楽しく過ごすことができました。

ホストファミリーはマザーの Megan、ファザーの Stuart、バディの Luke、妹の Talia の4人でした。初めは英語があまりわからなくて会話をする手段がルークが時々話す日本語くらいしかなく、環境が変わったということも相まってとても不安でした。しかし、ルークが相談に乗ってくれたり、ファミリーが積極的に話しかけてくれたおかげで打ち解け、たくさん話すうちに話していることも分かるようになってきました。

自分のホストファミリーはみんな運動が好きで、学校の登下校も歩いて帰ったり、家で一緒に運動をしたり、公園で一緒に遊んだり、家族みんなで散歩に行ったりしました。ホームステイ中の生活について

ては、シャワーの時間が日本よりも少し短かったり、家の中で靴を履いたままだったり、基本的にパン食だったり、変化はあったけど、思っていたよりも驚きはなく、すぐに慣れることができました。僕のホストファミリーは9月に来日し、僕の家を訪れてくれる予定なので、それまでにより英語力を上達させ、山陽小野田市についていろいろ紹介してあげたいです。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

何をするにも、失敗を恐れずチャレンジすることが大事だと思いました。ホストファミリーやハイスクールの人たちと話すときも自分から積極的に話しかけたり、オーストラリアの食べ物でもとりあえずチャレンジしてみると自分の好きなものに出会えるかもしれません。そして、リアクションやジェスチャーをしながら会話すると少し話しやすかったり、相手により気持ちを伝えられると思うので、たくさんリアクションやジェスチャーをしましょう！！



お世話になったホストファミリー



父: Stuart

母: Megan

バディ: Luke

妹: Talia



埴生中学校2年

こばしがわ ゆり
小橋川 友梨

1 計画 (PLAN)

- 沢山の人達と自分の力で会話をする
 - 単語だけでもいいからとにかく伝える
 - 分からなかったら聞き返す
 - 翻訳アプリをなるべく使わない
- オーストラリアの文化を知り、日本の文化を伝える
 - 折り紙や和食を作り、一緒に楽しむ
 - オーストラリアの文化に合わせ、体験してみる
- 自信を持って積極的に行動
 - 間違えても気にしない、次に生かす

2 行動 (DO)

初めは現地の英語に圧倒されてしまい、翻訳アプリを使うこともありましたが、日が経つにつれて段々聞き取れるようになり、自分から相手に質問したりして、会話を弾ませることができるようになりました。初めてみた物には”What’s this?”、何をしているのか気になった時は”What are you doing?”、聞き取れなかった時は”One more time please?”と聞いてみるなどなど

積極的な行動を心がけました。また、ハイスクールの生徒に Instagram を聞いて、”I want to talk you at school tomorrow!(明日学校であなたと話したい!)”とメッセージでやり取りをするなど、ハイスクールにいる時以外でも生徒と交流をすることができました。

3 評価 (SEE)

☆90点☆

ホストファミリーと話す時に翻訳アプリを使ってもらったことが多かったというのが1番の理由です。また、ハイスクールで話す話題も慣れてくると毎回似通ってしまっていたので、もっと色々な話をすれば良かったなと後悔しています。なので、-10点です。

聞くことも話すことも見るものも、全てが初めての世界で私は精一杯頑張り抜くことができました。この経験は私の中の自信に繋がりました。これから、何事にも自信を持って行動し、海外の方と日本語で話す機会があれば、オーストラリアの方達が私達にそうしてくれたように、「聞き取ろう」という気



持ちを持って接したいと思います。この派遣に参加する前まで私は特に夢がありませんでした。ですが、この派遣を通じて CA になるという大きな夢ができました。オーストラリアの生活では上手く聞き取れなかったり、話せなかったりすることも多かったのですが、英語力をもっと高めて、新しくできた夢に向かって頑張ろうと思います。勇気を出してこの派遣に参加して本当に良かったです。

派遣生徒レポート～優しい人に囲まれて～

学校生活について

一言で表すと「自由」でした。日本では髪色やアクセサリー、化粧などに関するルールがある学校が多いと思いますが、オーストラリアのハイスクールではそのようなルールは日本に比べて少なく、生徒それぞれが個性を大事に学校生活を楽しんでいました。実際に私のバディの Pallavi も私がオーストラリアへ行く少し前、髪の毛を紫色に染めていました。また、ハイスクールの生徒達と話している時にピアスをつけている子がいたので「そのピアス可愛い！日本の学校はつけてはいけないから悲しい…」というようなことを単語やジェスチャーを使って伝えるとみんなすごく驚いていて、「これも駄目なの？」「これはどう？」など私に沢山の質問をしてくれて、日本の学校にも興味を持ってくれたみたいで嬉しくなりました。ハイスクールへ登校する手段も自由でスクールバスや車、自転車、徒歩など各々自分に合った手段で登校をしていました。私が普段、日本の学校へ行く際は基本徒歩ですが、オーストラリアでは家からハイスクールが遠かったのが Pallavi と一緒にスクールバスを使って登校をしました。離れたところに住んでいる生徒は車よりスクールバスを使って通っている人が多い印象でした。また、昼食の時も自由という印象が大きかったです。私の学校では自分の教室で前を向いて静かに給食をよく味わって食べます。ハイスクールでは昼食を食べることができるタイミングが 2 回あり、外の広場で食べたり、教室で食べたり、各々自由に昼食を食べていました。オーストラリアはこのようにとても自由ですが、先生の話や聞けなかったり、反抗したりする生徒を私は見かけることがありませんでした。日本では細かい部分まで規則を作ることで、オーストラリアでは生徒の個性を活かすことで、生徒達を上手くまとめているのだと思います。どちらのやり方もそれぞれの良さがあると感じました。



6 日目に私達はハイスクールの全校生徒の前で名前・好きな物などと言って自己紹介をしました。私はその時とても緊張していたのですが、自己紹介の始めに”Hello!”と言うとハイスクールの生徒達が”Hello!”と明るく返してくれて、私が話しやすいと思えるような雰囲気を作ってくれました。日本ではこういう場面の時に良い意味でも悪い意味でも静かに聞いてしまうことが多いと思います。なのでこれからは相手が話しやすいと思える雰囲気を作るということを心がけていきたいと思いました。また、私が朝、Pallavi と日本語クラスの教室へ向かっていると「こんにちは！」と日本語で挨拶をしてくれたり、5 日目にハンピーポング小学校へ訪れた際にも日本語で私のことを「親切」と言ってくれ



る子がいて、本当にフレンドリーで優しい人達が多いと感じました。そのおかげで笑顔で 10 日間を過ごせました。

”誰も笑ったりしないから絶対大丈夫”と英語を話す時に心の中で思うと、自然と笑顔になることができて、自分から話しかけたり、質問をしたりして、自分の意志を伝えることができました。私がこう思えたのも全てハイスクールの生徒達のおかげです。本当に感謝しています。

ホームステイについて

私がお世話になったのは、バディの Pallavi、祖父母の Rob と Sue、そして犬の Valka です。家族みんなとても穏やかで優しく私に話しかけてくれました。私は犬を飼っていないので、Valka がいる生活は新鮮でとても楽しい毎日でした。Sue は毎朝”Good morning Yuri!”と言って私を起こしてくれました。私は朝が苦手なのですが、Sue のおかげで、気持ちよく朝を迎えることができました。

Pallavi 達の親戚で日本語教師をしている方と滞在中に電話をしたのですが、「オーストラリアで犬を飼っている家庭が多いのは縁起が良いからだよ。」と教えてくれました。なので私は日本のことについても知ってもらおうと思い、「日本では鶴が平和の象徴で、縁起が良い生き物です。」と伝えました。すると、「そうなんだね、知らなかったよ。」と言ってくれたので、私は更に日本のことを話したり、オーストラリアについての質問をしました。とても貴重な時間でした。

英語だらけの生活に慣れて少し会話が聞き取れるようになった時、Pallavi が Sue のことを”My nana”と呼んでいることに気がつきました。勇気を出して、Pallavi に”What do you call Sue?(あなたは Sue のことを何と呼んでいますか?)”と聞き、”My Nana”と呼んでいると言われたので、”What does that mean?(それってどういう意味?)”と聞くと、「おばあちゃん」という意味だよと教えてくれました。私は今まで、おばあちゃん=grandmother という意味しか知らなかったのが、勇気を出して聞いてみてよかったなと思います。

私はホームステイをしている間にうどんとおにぎりを作ってホストファミリーに振る舞うと行く前から決めていました。私が「今日の夜ご飯はうどんとおにぎりを作りたい」と Pallavi に伝えると、Pallavi は「何か必要なものはある?」「エビもいれてみない?」など色々な提案をしてくれて、Pallavi が自分も手伝うと言ってくれました。日本からほとんどの材料は持ってきていたので、Pallavi の提案でエビを追加で買って入れることにしました。2人で作ったうどんとおにぎりをみんなで食べ、Rob と Sue が美味しいと言ってくれたので、Pallavi とハイタッチをしました。

日曜日にはビーチで手形アートというのを Pallavi と作りました。手にボンドをつけて、写真フレームに手形をとります。そして、砂をかけると砂の手形になります。本当にいい記念になりました。ボンドで汚れた手を洗うために私が「海で洗う?」と聞くと、私が聞き取れたのが間違えていなければ、Pallavi は「本当はそうしたいけど、海の魚が可哀想だと思う」と言っていました。私も Pallavi のように生き物に自然と優しくできる人になりたいと思いました。また、10 日目の夜に2024の風船を持って、ティアラをつけて、Pallavi と一緒に写真を撮りました。それを見て Sue が”Princess!”と言ってくれて、また 1 つ良い思い出が増えました。

最終日、さよならパーティーが終わった後、私が”



miss you”という Pallavi が”me too”と返してくれました。Pallavi, Rob, Sue, 全員とハグをしたら、本当にもう会えなくなると思い、寂しくなりました。優しい人に囲まれて、本当に貴重な体験ができました。一生忘れない思い出です。またいつかみんなに会いたいです。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

オーストラリアでの生活は初めての挑戦ばかりで、10 日間の中で辛くなることもあると思います。ですが、それを乗り越えることができれば本当に楽しい日々になります。帰国してから絶対に「行ってよかった」と思えるはずです。伝える気持ちさえあれば、必ず通じます。オーストラリアの人達も聞き取ろうしてくれます。本当に優しい人ばかりです。英語が苦手だから、人見知りだから、そう躊躇してしまっている人にこそ、行って欲しいと私は思います。オーストラリアで英語が上手く話せなかったり、聞き取れなかったりしても、あまり自分を追い詰めすぎないでください。オーストラリアで過ごす中で絶対に聞き取れないといけなかったり、話さないといけなかったりがある時は翻訳に頼ってみてもいいと思います。この派遣にチャレンジするだけで本当に凄いことです。自分に自信を持って、笑顔で、精一杯頑張ってください。



お世話になったホストファミリー



祖父: Rob

祖母: Susan

バディ: Pallavi



山陽小野田市教育委員会 教育部長

ふじやま まさゆき
藤山 雅之

中学生海外派遣に引率して

《はじめに》

令和6年7月31日、ついにオーストラリアモートンベイ市への出発の日がやってきました。8人の生徒を海外で引率するという大きな責任を感じ、緊張しながら当日を迎えましたが、厚狭駅に集合した生徒たちが「行ってきます！」と笑顔で保護者の方に手を振っている姿を見て余計な力が抜け、みんなが元気に帰ってくることができるよう私にできることをしようと思いました。

厚狭駅を出発して約17時間後、ブリスベン空港に到着し外に出たとき、冬の朝の凜とした空気が、日本の厳しい暑さから一転、新境地に来たことを実感させてくれました。令和6年8月、山陽小野田市の中学生と一緒にモートンベイ市で10日間過ごしました。そこで感じたことと派遣生徒の様子を報告します。

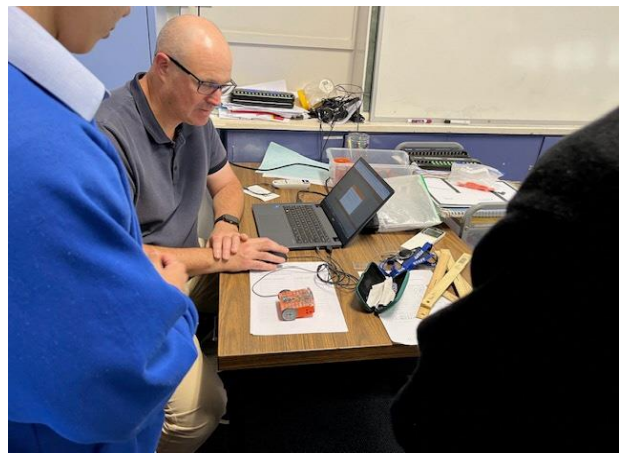
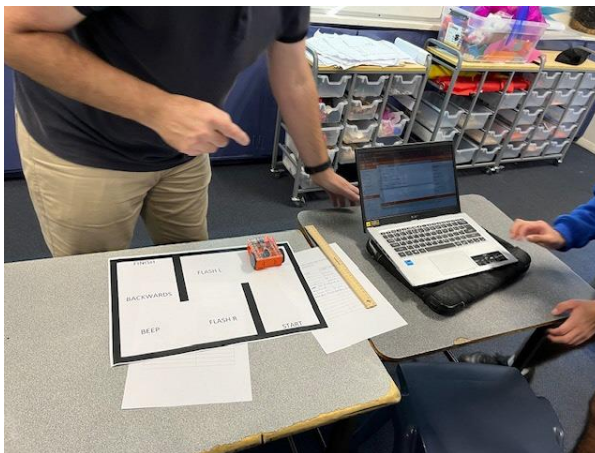
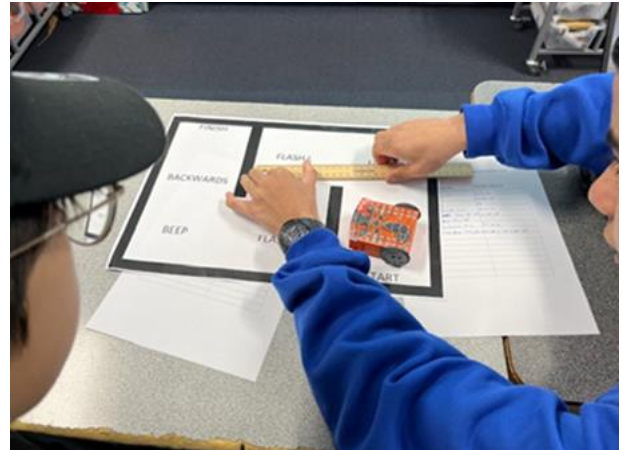
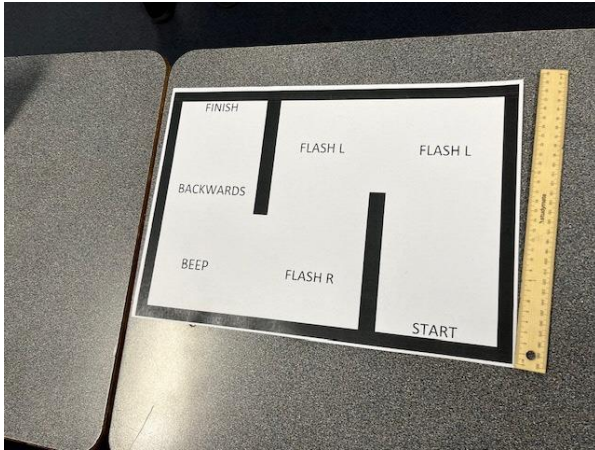
《オーストラリアの学校現場で感じたこと》

1つ目は、モートンベイ市があるクイーンズランド州では既に子どもたちのデータをシステムで管理し、教員を支援できるようになっていることに驚きました。

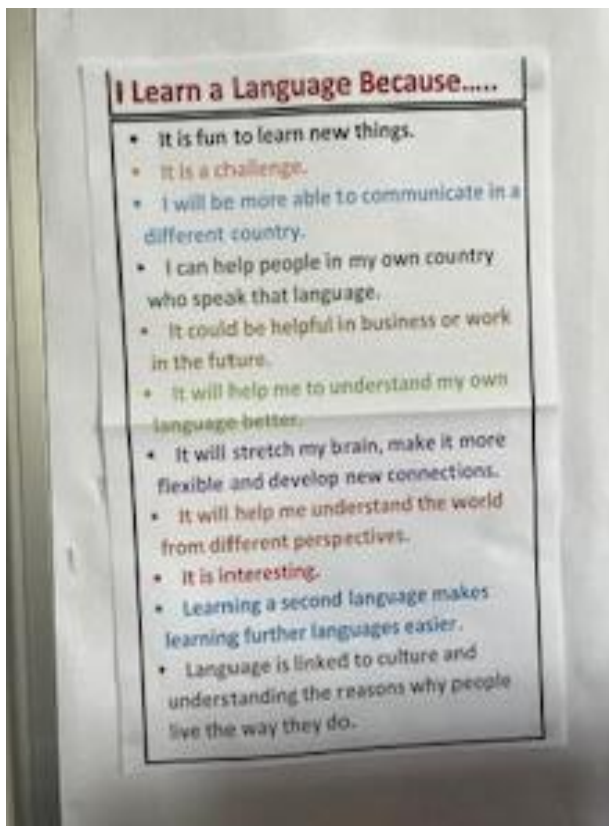
お世話になったレッドクリフステートハイスクール（Year8（中学2年生からYear12（高校3年生）までが在籍）では、教員が授業の始まる前に、子どもたちの出欠席をスマートフォンで確認していました。また、私が授業の様子を撮影しようすると、撮影してはいけない子どもたちの情報もスマートフォンで確認して教えてくれました。

2つ目は、日本では子どもたち一人一人にPCが貸与されていますが、ハイスクールではPCを持っていない子どもたちもいて、日本の子どもたちは恵まれていることを改めて感じました。

クイーンズランド州ではSTEM教育（Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとって、理数系領域を融合することで子どもたちの学びを活性化させ、実社会に応用できる知識や技能の習得を促そうという教育のアプローチ）に力を入れており、大会もいくつか開かれているようです。ハイスクールのYear8（中学2年生）のデジタルテクノロジーの授業では、プログラミングを学んでいました。左下写真にあるスタート、ゴールとするルートをプログラミングカーに走らせるものです。生徒は自分で考えて、わからないことは手を挙げて教員を呼んで助言を受けるといった形で授業は進められました。中にはPCを持っていない生徒も見受けられましたが、教員に聞くと経済的な理由によるもののようでした。持ってない生徒はプログラムを紙に書いて教員のところに持っていく、教員が実際に動かすようなシーンもありました。どの生徒もプログラミングカーが障害をクリアできたときの笑顔が印象的でした。



3つ目は、多様性の尊重をしっかりと教育されていると感じました。



左の写真は、滞在5日目に訪問した赤崎小学校の姉妹校であるハンピーポング小学校の日本語教室に貼られていたものです。オーストラリアでは小学校の高学年から外国語を学んでいて、ハンピーポング小学校では全員が日本語を学んでいました。「なぜ、言語(日本語)を学ぶのか」という基本的な問いに学校としての答えが列挙されています。

それは挑戦であり、3番目以降の理由で、それによってできること、役立つことが掲げられていますが、注目すべきは、8番目と11番目の理由です。異なる視点から世界を理解するのに役立つこと、言語は文化に関連しており、人々が自分たちの生活をする理由を理解することができることが掲げられています。多様な価値観や文化的背景に触れる機会を生かし、多様性は社会を豊かにするという価値観の醸成やグローバル人材の育成など、異文化交流、多文化共生の考え方に基づく教育に取り組んでいるようでした。

《挑戦する生徒》

モートンベイ市に到着してからは、派遣生徒はレッドクリフステートハイスクールでクラスメイトの一員として授業を受け、またホームステイ先では家族の一員として生活を送ることになりました。ほとんど日本人しかいない環境から、ほとんど日本人がいない環境で生活様式や価値観も異なる生活に変わり、日本との違いに驚いたり、自信を持ち始めた英語が使えなかったりと、厚狭駅を出発する前の笑顔が見られなくなった生徒もいました。そんな生徒も、「買い物をしたいと言ったら、ホストファミリーが連れて行ってくれた。」という話を他の生徒から聞いて、自分のほうから関わらなければいけないと「目覚めた」ように感じました。そして、いつしか派遣生徒は話しかけること、つまり「関わること」が正しい英語を話すことよりも心が通じ合うために大切であり、同時に言葉の向こうにある大切なものを実感として気づいたようでした。

今回の海外派遣に向けて生徒たちは、「英語で話す」準備をしてきたと思いますが、グローバルな視点に立って考えるとき、「英語力」も必要ですが、真に最も必要な力は、言葉は、「人」次第で変わるということを現地での生徒の様子を見ながら教えられました。どんなに語学力が高くても、相手を理解しようしなければ、関わろうとしなければ、よりよいコミュニケーションを図ることはできないと思います。今は、翻訳機やパソコンがあれば、あらゆる言語に機械が翻訳してくれる時代です。恐れずにチャレンジする気持ちや、自分の考えをしっかりとつことこそが、生活様式や価値観も異なる「人」を理解するために 不可欠であることを、生徒たちも、この10日間の体験を通して実感できたようでした。

《おわりに》

コアラは生息しているオーストラリアで見ることこそ価値があると思います。同じように外国の方と話したり、文化を学んだりすることは、日本で書物やインターネット等を通じて学ぶより現地で学ぶからこそ、感じたり、わかったりすることがあると思います。そのような意味において、今回の派遣生徒8名だけでなく、私自身にとっても貴重な経験となり、いい思い出となりました。

私のたった一つの心残りは、これは帰国して友人にお土産を持って行ったときに気付かされたことなのですが、オーストラリアの夜空に美しく輝く南十字星を、南半球のシンボリック存在である南十字星を見ながら、山陽小野田市に思いを馳せることをしなかったことだけです。

私は厚狭駅を出発する前に派遣生徒に、「私はこの海外派遣事業に参加した皆さんの先輩方にお会いすることがありました。先輩方は口々にこの事業が人生のターニングポイントになったと言っています。目に見えないそれがこれからの10日間にあることはすごいこと。愛だとか恋だとかこれも目に見えない素晴らしいものだけど何時するかわからない。ぜひこの10日間を大事に前向きに取り組んでほしい。」と伝えました。そして帰国後厚狭駅で解散する前に派遣生徒に次のように聞いてみました。「何か自分の中で大きく変わったことがあった？」かと。生徒たちの反応は様々でしたが、この海外研修を通して生徒の皆さんが感じたこと、学んだことをこの先の人生で活かせる時がくることを願っています。今は無事に派遣生徒をご家族のもとへ帰すことができ、ほっとしています。生徒の成長を間近で見ることができて光栄でしたし、自分の仕事もモチベーションにも繋がりましたオーストラリアで見てきたこと、感じたことを、今後の業務に活かしていきたいです。

最後に、温かく迎えて下さったモートンベイ市の皆様、派遣生徒のみなさんと、生徒を預けていただいた保護者の皆様、学校関係者の皆様、派遣事業を実施していただいた市民活動推進課の皆様、本事業に参加するにあたり快く背中を押していただきました、長友教育長と教育委員会事務局の皆様ほかこの事業を支えてくださった皆様に感謝申し上げます私の報告といたします。





山陽小野田市市民活動推進課

たなべ
田邊

みどり
碧

中学生海外派遣に引率して

《派遣前の活動》

6月19日(水)に第1回オリエンテーションを実施しました。毎年このオリエンテーションでは、壮行式・現地歓迎会・現地送別会であいさつをする生徒を決めるのですが、今年も積極的に手が挙がりました。高いモチベーションを感じました。その後、恒例行事である「さよならパーティー」の出し物を決めましたが、絵はがき作りとミニ運動会をすることになりました。



7月15日(月・祝)に2回目のオリエンテーションを本山地域交流センターで実施しました。午前中は英語レッスンを行いました。今年度も昨年度と同様に平成15年度中学生海外派遣事業の派遣生徒で、現在は英会話教室を主宰されているウイドーズ篤実先生にお願いしました。ウイドーズ先生は「自分を知ってもらうことがとても大切。そのためには、自分が自分のことを知って、人に伝えられるようになりましょう。」と語り、みんな悩みながらワーク

シートを埋めて、全員に向かって自己紹介をしました。意外な趣味や好きなものを知ることができて、大いに盛り上がりました。午後からはさよならパーティーの出し物の準備をしたり、きららガラス未来館でホストファミリーにプレゼントするジェルキャンドルを製作したりしました。この一日で生徒同士の絆がぐっと深まりました。

出発が5日後に迫った7月26日(金)に壮行式を行いました。藤田市長をはじめとする出席者の皆様から激励のことばをいただき、それに対して高千帆中学校の石川紗夜さんが派遣への決意を述べました。終了後に第3回オリエンテーションを行い、さよならパーティーの最終確認をしましたが、各自で準備をしてきたようで、この時点でかなり完成度が高い仕上がりになっていました。



《派遣中の活動》

今年の派遣生徒はコミュニケーション能力が抜群でした。現地ハイスクールの生徒と積極的に関わろうとする姿が随所でみられました。しかし、中には思うようにコミュニケーションがとれない、英語で会話ができないことに悩む生徒もいました。私は話を聞いてあげることしかできませんでしたが、各々が自分の力で困難を乗り越えました。その姿勢から私も学ぶことができました。

8月6日校内で集会があり、派遣生徒が600人を前にして自己紹介をしました。引率者はモートンベイ市役所等を訪問する公務があったため、その様子を見ることは叶いませんでしたが、全員が堂々と自己紹介をしたとハイスクールで中学生海外派遣事業を担当してくださっているジェシカ・ライリー先生から聞きました。大勢の外国人を目の前にして英語で話をするなんて大人でも逃げ出したくなるくらい緊張しますが、生徒達は一つずつ困難を乗り越えて成長しているんだと思いました。



8月9日は、同じ時期にモートンベイ市から2時間ほど離れた街で短期留学をしていたサビエル高校の生徒15人がハイスクールを訪れ、サビエル高・ハイスクール・派遣生徒の三者で海辺でフィッシュアンドチップスパーティーをしました。ハイスクールで過ごした9日間は、授業は静かに受講し、ローンパインコアラサンチュアリーや市公共施設(図書館・美術館・博物館)を巡る校外学習の際は思いきり楽しんで、メリハリのあるスクールライフを送ることができたと思います。

8月10日はいよいよ帰国の日です。生徒達は昼過ぎにホストファミリーとともにハイスクールに集まり、さよならパーティーをしました。例年さよならパーティーはハイスクールの最終日に行うためホストファミリーが参加することはありませんが、今年のさよ

ならパーティーは講堂を貸切って盛大に行われました。さよならパーティーでは、ジェシカ先生のあいさつと派遣の様子をまとめたビデオ上映のあと、ハイスクールの代表生徒のあいさつと続きました。とても上手な日本語で涙ながらに私達に思いを伝えてくれ心が打たれました。その後、派遣生徒が準備してきた運動会を行いました。まずはじめにラジオ体操(メロディーは英語)をしました。オーストラリアには馴染みのないのですが、ホストファミリー達は器用に体を動かしていました。ラジオ体操で体を整えたあと、2グループに分かれ、けん玉リレー競争をしました。ホストファミリー達は苦戦していましたが、その様子を含め大いに盛り上がりました。最後にスマートフォンのライトをペンライト代わりにして全員で「Good Time」を大合唱しました。この曲は、ウイドーズ篤実先生の英語レッスンでいつも歌う曲です。「It's always a good time(いつだって最高さ)」というフレーズが何度も出てきます。この派遣期間中を思い起こしながら熱唱していました。ホストファミリー達も余興を準備してくれ、「コアラダンス」を全員で踊りました。これ以上ない最高の時間を過ごすことができました。最後に竜王中学校の倉増あい菜さんが10日間の感謝の気持ちを伝え、さよならパーティーを閉じました。そして、迎えのバスに乗り込みます。生徒達もホストファミリー達も涙が溢れて止まりませんでした。その場面に今年も立ち会え、大きな幸せを感じました。



《派遣を終えて》

モートンベイ市で過ごす時間はどこを切り取っても素晴らしいものですが、特に今回私の心に残ったのは、ジェシカ先生のご実家に訪問させていただいたことです。引率者は基本的に派遣生徒のホームステイ先に行くことはないのですが、オーストラリアの一般家庭におじゃまるのは初めてでした。ジェシカ先生のご実家では25年ほど前からさまざまな国や地域の留学生のホームステイを受け入れてこられその数は40人になるといいます。ご自宅を留学生との思い出話とともにお母様に案内していただきました。階段の踊り場には、留学生との記念写真が壁一面に飾られていました。ホストファミリーとして大きな愛情をもって留学生を受け入れてこられたことがひしひしと伝わってきて、感動しました。同時にこれまで本市がお世話になった全てのホストファミリーの皆様に感謝と敬意の念を抱きました。

来年度は30回目という節目を迎えます。これだけ長い年月一つの事業が続いていることに改めて驚かされます。私は昨年度の帰国報告書に「この事業の継続的な実施に向け、担当として業務に当たっていきたいと考えています。」と述べましたが、継続的な実施はもとより実施後の振り返りが重要で、次年度さらに進化した事業にしていけることが重要であると終えた今そう思います。記念すべき30回目の事業の実施に向け、今から準備をしていきたいと考えています。

最後に、今年度もこの事業に関わってくださった全ての皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

編集・発行

山陽小野田市協創部市民活動推進課

〒756-8601

山口県山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134 FAX 0836-84-6937